



越谷市議会議員

福田あきら

活動報告レポート『GET GOAL!』2017年新春号 No. **23**

〒343-0046 越谷市弥栄町4-1-120

TEL/FAX 048-978-3335

Mali info@akira-fukuda.com HP http://akira-fukuda.com



※本活動報告レポートは、福田あきら自身が構成(文書/デザイン)をすべて担当しており、最小限の費用にて作成しています。(IT企業出身である強みを活かしています)

再考せよ！超高齢社会でのごみ出し&ごみ収集

12月定例議会 一般質問より

ごみ出しとごみ収集は超高齢社会での重要課題

超高齢者のごみの収集方法については、介護、医療、年金等の制度のあり方と同じくらいにしっかりと考えていかなければならない重要な課題であると認識しています。先日私は、雨の日に、片手でゴミ袋を持ち、片手で杖をつきながら、ずぶぬれになってゴミ出しをしているご年配の方を見かけました。また、マンションに住む足が不自由な高齢の方がゴミを出しに行くことが苦痛で家にごみをためこんでしまい、ゴミ屋敷化した例などもあるそうです。こうした光景があらわれているのが超高齢社会でのゴミの収集等の問題なのです。2年前の一般質問では、「ごみ収集かごの改善について」、「ごみ収集かごの配布及び回収を業者に委託することについて」、「ごみの戸別収集について」、そして「ゴミ袋の有料化について」など具体的な課題と改善についての方向性を市長に問いましたが、この度は越谷市として超高齢社会の中でのゴミ収集等のあり方をどのように認識しているのか？今後の大きな方向性及び考え方について市長に確認しました。

【市長答弁】

超高齢社会におけるゴミの収集のあり方については、全国のごみ収集等を担う自治体の共通の課題と認識している。現在、越谷市では、不燃ゴミや資源ゴミなどはカゴによる収集を前提として、収集車両の種類を選定し、リサイクルプラザの選別設備を配置していることから、収集から処理処分までが一連のシステムとして連動しており、収集形態の変更は容易にできない状況となっている。また収集カゴについては、集積所を利用される市民の皆さんに管理をお願いしており、その方法は集積所について様々だが、特に輪番制や当番制により自宅にカゴを持ち帰って管理されている場合には、高齢者の方々の負担になっていると伺っている。そのため、カゴの出し入れの負担を軽減するため、カゴにキャスターを付けたり軽量化のために小型化したものや素材をビニール製にしたものを用意して対応してきた。さらに一部の自治会に協力を得て、ネット製の収集袋を試験的に導入し、使い勝手等の検証を行っており、引き続き、負担を軽減するための取り組みを行っていく。また、現在実施している「ふれあい収集」については、年々登録者が増加傾向にあり、ゴミ出しの困難な一人暮らしの高齢者の方が、家の中にゴミを溜め込まないで、ゴミ屋敷化しないための効果が見込まれる。しかしながら、今後の長高齢社会においては、複雑なゴミの分別が困難になることや集積所の当番ができなくなること、さらには在宅医療などの拡充による医療系廃棄物の増加といった問題が多く生じることが予想される。このため、超高齢社会におけるゴミの収集のあり方については、他の自治体の対応も参考にして、今後は廃棄物減量等推進審議会を開催する中で議論をいただき、審議会での意見を踏まえて、超高齢社会に順応した一般廃棄物処理基本計画の改定を行い、着実な政策を展開していきたい。いずれにしても、超高齢社会における都市経営は、従来どおりの手法に固執せず、本質を見極め、斬新な発想で施策を展開することが必要と認識しており、ごみの収集のあり方を含め、行政サービス全般について実情やニーズを踏まえた検討を進めていく。



会派行政調査より

更に詳しくブログをチェック

11月16日～18日にかけて、3自治体において3項目についての行政調査を実施しました。総務常任委員長として初めての行政調査です。

- 広島県 呉市 (11月16日) 公共施設等総合管理計画について
- 岡山県 岡山市(11月17日) 消防団活性化計画について
- 香川県 高松市(11月18日) 行財政改革について

呉市では、公共施設等総合管理計画の基本方針として、『現在の公共施設等を、将来にわたりこれまでどおり持ち続けることは困難であり人口規模、財政規模にふさわしい行政サービスを、安全かつ継続的に提供していくために、公共施設等の「量」と「質」の適正化を図り、次世代に負担をかけないためにも、人口規模の推移に応じて公共施設等の「量」を縮減する。計画的な保全、耐震化、長寿命化により安全を確保しつつ、複合化、集約化など利用需要の変化に対応しながら「質」を高めていく』ことなどを確認しました。



(説明を聞く私と瀬賀副委員長)

越谷市議会災害時対応訓練より



(災害時対応訓練の様子)

12月15日、平成28年度越谷市議会災害時対応訓練が実施されました。主な実施内容は下記4点です。

①安否確認 ②参集訓練 ③意見交換 ④避難所運営ゲーム(HUG)の体験
災害発生時、議員に求められている役割については、まだまだ検討の余地があるというのが正直なところ。だからこそ、こうした取り組みを通じ意見交換を行うことによって、少しずつ議会共通の理解をすすめています。一方で、災害発生時に議員として参集をするためには自分や家族の安全が確保されていることが必要です。だからこそ特に自宅の防災機能が重要なのですが、実際に私自身も窓や家具を確認すると、まだまだ万全ではありません。ぜひ皆様もまずは自助の観点で、自分のご家庭の防災機能を再考してみてください。

福田あきら(41歳)プロフィール

【所属会派】民進党と無所属の会

【常任委員会】総務常任委員会(委員長)

1975年越谷市に生まれる(昭和50年5月28日生まれ)
1982年清浄院幼稚園卒園
1988年越谷市立桜井南小学校卒業
1991年越谷市立越谷北中学校卒業
1994年埼玉県立越谷北高等学校理数科卒業
1998年法政大学法学部法律学科卒業
2000年現:伊藤忠テクノソリューションズ(株)入社
→IT企業のサラリーマンとして10年勤務
2011年越谷市議会選挙初当選
2015年2期目当選

●資格 情報セキュリティマネジメント/宅地建物取引士等
●家族 妻と長男、次男、チワワ2匹
●サッカー選手としての経歴
・越谷フットボールクラブ(小学校1年~6年/社会人)
・水戸ホーリーホック【現Jリーグ2部】
・全国社会人サッカー選手権大会優勝
福島/広島国民体育大会(国体)サッカー優勝
など三度の日本一を経験
・現在、越谷市サッカー協会副会長
・越谷市スポーツ少年団監事



日々情報発信中

公式ホームページ
越谷市議会議員
福田あきら



ブログ
福田あきらの
政治家日記



★電話による市民相談窓口 048-978-3335

基本:平日10:00~18:00大変恐縮ですが、番号通知(表示)がある方へのみの対応となります。もし留守電の場合は要件を録音願います。確認後、折り返し連絡させていただきます。

イオンレイクタウン周辺の交通渋滞を解消せよ

今や、越谷における商業の顔となったイオンレイクタウン。年間5000万人を集客するこの施設は、地域ににぎわいを与え、越谷という市の名前を全国的に有名にしたショッピングモールでもあります。

その一方で一つ困った問題があります。集客力があることから、土曜日、日曜日にイオンレイクタウン周辺に、車の大渋滞が発生することです。月に1～2回程度しか周辺を通らない人から見れば、我慢の範囲内かもしれませんが、地元に住んでいる方々からすると、毎週発生するこの問題は、いつまでも見過ごすわけにはいかない深刻な問題です。実際私にもレイクタウン地区周辺の方から、交通渋滞を改善してほしいとの要望を何度も頂いているところです。すでに、本件は、民間のショッピングモールの問題ではなく、まさに行政や地域住民も共に考えていかなければならない地域の課題だと思います。そこで市長に下記3点について質問しました。

- ①現在の渋滞に対する市の認識について
- ②協議会など、改善にむけた取り組み状況について、
- ③具体的な解消策について

【市長答弁】

イオンレイクタウンは平成20年度10月のオープン以来、休日等には周辺道路で交通渋滞が発生しているためイオンモール株式会社では、鉄道などの公共交通機関の利用促進やKazaとアウトレットを繋ぐ歩行者用の上空通路の設置など渋滞緩和対策を実施してきた。しかしながら、一民間企業の対策には限界もあることから、国、県、警察、市などの関係機関で構成される「イオンレイクタウン周辺交通対策連絡調整会議」を適宜開催し、交差点改良や道路をまたぐ車両横断施設の設置などの様々な対策案を検討してきた。その結果、県道平方線上空に車両横断施設を早期に設置することで基本的な方向性について理解が得られたため、現在具体的な協議も進めている。また周辺道路環境だけの問題ではなく、イオンレイクタウン各施設における回遊性や集客力のかたよりも原因となっているため、建物環境の改善や駐車能力の向上など体系的に解決する必要があると考えている。このようなことから、本市では上位計画に定めたまちづくりの方針との整合や交通渋滞対策など総合的に評価した結果合理的かつ適正な土地利用を図り、目指すべき市街地像の実現に向けて、都市計画を変更する必要があると判断し平成28年度10月14日付けで用途地域を第二種住居地域から近隣商業地域へ変更するとともに防火・準防火地域、地区計画の都市計画変更を行った。この都市計画により、イオンでは立体駐車場の増設も含めた第一期増築計画を検討していく予定と伺っている。

12月定例議会 市長提出議案より

⇒公契約条例が制定

12月定例議会では高橋市長の公約であり、また長い期間、議会でも議論を続けてきた公契約条例が全会一致で可決されました。私自身も他の自治体の公契約条例を調査してきた経緯があります。

●公契約条例とは

・条例の趣旨

適正な労働条件を確保するため、市が独自に定める労働報酬下限額以上の賃金の支払いを、受注者に義務づけることを柱とする

・本市の条例は、市が発注する次の全ての公契約が対象

- ①建設工事 ②製造請負 ③業務委託 ④指定管理協定

・労働報酬下限額等については、その中の以下の案件が対象

- 建設工事 : 予定価格5,000万以上
- 業務委託 : 予定価格1,000万以上のうち一定の案件
- 指定管理協定 : 委託上限額1,000万円以上

●公契約の目的

公平かつ公正な公契約及びそれに従事する労働者の適正な労働条件の確保を図り、もって公契約の適正な履行及び質の向上に資するとともに、地域経済の健全な発展及び市民福祉の増進に寄与することを目的とする。

●基本方針

- (1) 公契約における法令遵守の徹底を図り、透明性の確保、公平かつ公正な競争を促進すること。
- (2) 公契約の品質、価格及び履行の適正を確保し、良質な市民サービスの提供に努めること。
- (3) 労働者等の適正な労働条件の確保に配慮し、本市における雇用の促進及び安定に努めること。
- (4) 市内の中小企業の受注機会の増大を図るとともに、防災活動等をはじめとする地域貢献に取り組む事業者を適正に評価し、市内経済の活性化のほか、公契約の担い手の育成及び確保に寄与すること。
- (5) 談合その他の不正行為の排除を徹底すること。



平成28年11月12日(土)第4回越谷市模擬議会「高校生・大学生議会」が開催されました。越谷市議会では、次代を担う若者に市政や議会への関心を深めていただくことを目的に、平成22年度から大学生を対象にした模擬議会を隔年(2年に1回)で開催してきましたが、この度、公職選挙法改正により選挙権年齢が18歳以上に引き下げとなったことから、新たに高校生も加えて模擬議会を開催しました。公募により選出された市内在住の大学生(大学院生、短大生、専門学校生を含む)や市内の大学及び高校から選出された学生及び生徒で構成されています。模擬議会は模擬議員(21人)が市政に対する一般質問を行い、それに対して市議会議員が答弁者として、その質問に答えました。

私は、2名の学生議員(両名とも高校生)から下記質問をうけ答弁に立ちました。

①SNSの利用について ⇒災害時のツイッターの活用や、フォロワー(利用者)を増やす方法は?

②行政改革について ⇒第5次行政改革において、実施したこと、出来なかったことは?

両質問とも学生らしい視点でのするどい質問でした。

また学生議会終了後に行われた意見交換会では、学生たちからSNS、Twitterのフォロワーを増やすための方法として主に4つの提案を頂きました。この学生たちから頂いた提案はお金をかけず、すぐにでも取り組むことが可能である内容であったこともあり、12月定例議会の一般質問では、学生の提案を取り入れるよう執行部に提案しました。

提案内容と執行部の答弁は下記の通りです。

提案1:ツイート(投稿)にもっと画像や動画を利用する

⇒【市長答弁】画像の掲載頻度を増やし、動画掲載は検討していく。

提案2:単純な連絡文章ではなく、興味をもってもらえる文章にする

⇒【市長答弁】わかりやすいタイトルで親しみやすい内容となるよう徹底する。また職員研修をすすめ、工夫していきたい。

提案3:プレゼント企画を実施する(リツイート&フォローで)

⇒【市長答弁】民間企業等との連携や効果について調査研究していく。

提案4:市民にとってもっと役に立つ情報を載せる市民紹介、時の人紹介などを実施する(友達が見るから)

⇒【市長答弁】今までは「広報こしがや季節版」で本市にゆかりのある著名人を紹介する「ときめきインタビュー」をホームページの記事として掲載した際にお知らせなどを行っており、リツイートなどの反響を頂いていたが、今後は「広報こしがやお知らせ版」の人物紹介「わがまちこの人」ホームページの記事として新たに掲載しツイッターでお知らせするなど、発信する情報の更なる充実を努めていきたい。

尚ツイッターのフォロワーを増やすことについての市の認識は次のとおりです。

⇒【市長答弁】ツイッターは、東日本大震災発生直後においても稼働していた実績があることから、災害時の情報発信手段として注目され、現在では多くの自治体が運用している。情報の拡散効果が高く、市公式ツイッターのフォロワーを増やすことは災害時の対策の観点からも大変重要であると認識している。

市長答弁からわかるように、学生たちから頂いた提案を複数採用して頂きました。学生自身も自分の意見が市政に反映したとなれば、政治への参加への意義を感じたり、自分の声で市政が変わるんだという実感を得ることができます。

私もできるだけ、若い方の声を取り入れ市政に反映させていきたいと思っております。



(学生模擬議会の様子です)

